

事業所名	グループホームいつもえがお (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成16年2月12日
評価機関名	(株)東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:特別養護老人ホーム生活相談員歴3年以上 臨床工学技士資格取得 B:介護支援専門員登録 ホームヘルパー2級 難病患者ホームヘルパー研修終了
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) (1)「家庭」を意識したグループホーム管理運営がされている。 (2)痴呆介護に真摯に取り組んでおり、医学的・科学的な視点からグループホームの(建物)全体につき痴呆の方が安心できる生活環境整備と介護・援助を考慮した整備を行っている。 (3)管理者を先頭に職員全員がグループホームの目的を理解したうえで、介護理論をもって介護・接遇に取り組んでいる。 (4)グループホーム職員が自然な感じで利用者と共同生活をしている印象を受けとることができた。 (5)職員教育がされており、職員全員が理念をもとに統一的に先進的な介護にあっている。 (6)職員が日常の仕事に対して、利用者と馴れ合いでなく、自然な見守りを心がけているように感じた。 (7)グループホームの立地(住宅地・季節を感じられる環境)条件が整っており、グループホームと周囲の環境がマッチしている。 (8)利用者の五感を適度に刺激できるように屋外に畑や中庭(東屋)が設備されており、居室からの出入りもできるように開放感がある。 (9)家具の配置など利用者本位に設定されており、居室に利用者の個性が感じられる。 (10)利用者の視力低下に配慮し、リビングルーム等の照明照度を高める配慮がされている。 (11)事務所スペースが整頓されており、必要書類のファイリングもきちんとなされている。これにより全ての人が情報を共有できる環境が整っていて、スタッフ全員が同じ方向を目指した介護サービスの提供が実践できている。
特に改善の余地があると思われる点 特になし

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か ・医療法人の理念をもとに、(1)自尊心と自信をたかめる(2)自立を促す(3)五感(自然)を最大限に活用する(4)不安、混乱を予防する(5)家族、地域と交流を促すケアを原則として掲げていた。 ・その具体的方法のひとつとして、ジェントルティーチング(全人的ケア手法)といわれる手法が取り入れられていた。 ・人としての基本的な人権を保障して、地域と連携したグループホームづくりの中で痴呆介護に取り組む姿勢が、グループホームのづくり(建物環境)などで具現化され、実践されていた。 ・素晴らしいと思うことは、理事長を先頭に管理者が「理想とするグループホームのあり方」を常に追及する向上心と、それを職員に徹底させていく姿勢を持っていることであり、第三者として高く評価すべき点である。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違ひ等の防止策	○	
記述項目	入居者が暮らしていて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か ・利用者と家族の関係・本人の感情状況を考慮した介護援助を行っている。 ・「家庭」を意識して個人のプライバシー保護を考慮し、建物内で他の利用者・外部者から不必要な干渉を受けずに安定した生活を送れるような環境作りがなされていた。具体的にはメインリビングとは別に「逃げの空間」としてのサブリビングや和室コーナーなど、利用者本位に考えられた空間作りができていた。 ・またユニットあることを最大限に活用し、ユニットごとにアルツハイマー型痴呆対応・脳血管性痴呆対応とに分けてそれぞれの疾患に適切な空間作りが実現されており、痴呆疾患に対する専門的ケアが行われていた。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	病気の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か ・利用者の社会的、肉体的、精神的環境の理解と職員間の共有を、ケーススタディ・カンファレンス(会議)により行う。 ・利用者の自然な生活を保障する介護・接遇についての研修を、グループホーム全体で積極的に実践している。 ・管理者を先頭に諸外国における痴呆症のケアについても日々研究されており、先進的な知見において利用者ひとりひとりの経験を尊重したうえでのケアサービスを提供する姿勢が感じられた。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 ・職員の学習と教育は、法人内の部署ごとの課題発表などが行われ、自己研鑽している。 ・グループホーム外研修にも積極的に参加し情報収集に努められていた。 ・管理者が介護スタッフの教育に大変気を配っており、自律した介護職員として、各人が自らの「気づき」によって自信を持ち、プロとしてのサービスを提供できるように意識向上のための労務管理が実践されていた。 ・地域交流においても積極的にであり、法人として地域の人々が安心して過ごせる各種施設設置(老人保健施設など)を通して地域に貢献しようとしている。 ・他のグループホームとの間で、互いに介護内容を評価点検する取り組みが行われていた。		